

第4分野 香り高い地域文化と心豊かな人を育むまち

基本方針3

スポーツに参画できる環境づくりを進めます

事業年度	令和4年度
責任部長	教育次長
責任課長	スポーツ振興課長
責任課	スポーツ振興課
主管課・関係課	スポーツ振興課、社会福祉課、社会教育課、観光課

■施策の概要

施策1: ライフステージに応じたスポーツ活動の推進 【主管課: 教育委員会事務局 スポーツ振興課】

スポーツを通じて体力や社会性を養い、スポーツ好きな子どもを育成するため、幼少期からのスポーツ活動を推進するとともに、市民一人ひとりが、生涯にわたり心身ともに健康な生活が送れるよう、誰もが気軽に取り組めるスポーツ機会の提供が必要です。そのため、年代、運動能力や体力の違いに応じたスポーツ活動を推進します。

施策2: スポーツ活動の支援 【主管課: 教育委員会事務局 スポーツ振興課】

競技力向上や少年スポーツ活動の充実を図るため、ハード面やソフト面など様々な側面から継続的な支援を行う必要があります。このため、スポーツを支える指導者の育成や、大会等を支えるボランティアの発掘、スポーツに親しむための環境整備を行うなど、スポーツ活動の支援を行います。

施策3: スポーツツーリズムの推進 【主管課: 教育委員会事務局 スポーツ振興課】

スポーツに関心をもち、スポーツを「する・観る・支える」市民を増やすための取り組みとして、一流アスリートのプレーに触れ、スポーツの価値や魅力を感じる機会や、子どもたちが夢や憧れをもち、競技スポーツに取り組むきっかけづくりが必要です。また、スポーツ施設の予約管理をはじめ、宿泊施設の案内や、観光要素も含めた複合的な目的での利用など、多様化するニーズに対応するため、スポーツ合宿や大会等の受入態勢を強化するとともに、スポーツによる交流人口を増やし、全国・世界規模の大会やイベント、合宿等を誘致するなど、地域経済の活性化も視野にスポーツツーリズムを推進します。

■関連指標の動向

指標名	単位	管理種別	望ましい方向	関連施策	現状値	各年度の目標値(上段)					評価年度の達成率	
					(R1)	各年度の実績値(下段)						
						R3	R4	R5	R6	R7		
▶ 週1回以上スポーツ活動をする市民の割合(まちづくりアンケート)	%	フロー	↗	施策1	34.9 (R2)	-	-	40.0	-	50.0	-	-
▶ 小中学生の少年スポーツ団体への加入率(時点)	%	フロー	↗	施策2	65.6	63.0	65.0	67.0	68.0	68.5	88.3%	-
▶ スポーツを「する・観る・支える」市民の割合(まちづくりアンケート)	%	フロー	↗	施策3	17.7 (R2)	-	-	20.0	-	30.0	-	-
▶ スポーツ大会・合宿への参加者数(年間)	人	フロー	↗	施策3	3,268	11,000	16,000	21,000	30,000	31,000	115.4%	-
▶						12,339	18,465					

■決算データ及び構成事務事業の実施状況

施策名	R3決算額(千円)	R4決算額(千円)	構成事務事業の実施状況(R4)					
			a	b	c	d	-	小計
1 ライフステージに応じたスポーツ活動の推進	4,149	5,464	0	2	0	0	0	2
2 スポーツ活動の支援	36,697	29,142	0	4	0	0	0	4
3 スポーツツーリズムの推進	21,346	19,426	0	2	0	0	0	2
4								
小計	62,192	54,032	0	8	0	0	0	8

- a: 順調に実施されており、成果が表れている事務事業
- b: 概ね順調に実施されており、一定の成果が表れている事務事業
- c: 概ね順調に実施されているものの、目指す成果が表れていない事務事業
- d: 実施状況及び目指す成果ともに停滞している事務事業

■基本方針に係る総括評価(所見)

【責任部長・教育次長】

令和4年度は、新型コロナウイルス感染症に対する制限が徐々に緩和されたことから、スポーツ大会や合宿、スポーツイベント、スポーツ教室などのスポーツ活動を展開した。「1市民1スポーツ」の推進にあたっては、いつでも、どこでも誰もが手軽に出来る(参加出来る)ウォーキング、ノルディックウォーク、健康体操教室を開催した。また、スポーツをする(好きになる)きっかけづくりとして、プロアスリートを招いたスポーツイベント等を開催し、多くの市民が参加した。スポーツ大会・合宿誘致においては、リピーターの定着と、利便性を高めるための、窓口の一元化(受付、弁当、宿泊の手配等)により、利用者数は令和元年来で過去最高となるなど一定の成果を上げることができた。

少年スポーツ団体への加入率は、コロナの影響によるスポーツ離れや少子化による少年スポーツクラブへの入会数の減少などにより、大幅な加入は見込めない状況にある。今後の少年スポーツの在り方について検討し、市内のクラブの統一化など、新たな少年スポーツ団体の実現を目指していく。

■施策ごとの評価

施策1:ライフステージに応じたスポーツ活動の推進

【主管課:教育委員会事務局 スポーツ振興課】

評価

B

目指す姿に向けて概ね順調であるが、一部努力を要する。

▶後期基本計画策定時の「現状と課題」

スポーツ活動に取り組む市民の割合は、やや増加傾向にありますが、30代から50代のスポーツ実施率が低くなっていることから、要因を把握した上で、すべての世代がスポーツに取組みやすい環境を整える必要があります。

◎後期基本計画策定時の「目指す姿」

スポーツに親しむきっかけづくりや、各世代のニーズ、ライフスタイルに合ったスポーツ活動の展開により、市民が健康でいきいきとした生活を送っています。

I. 施策の取組効果や達成状況に関する分析(関連する事務事業の成果や積み残されている課題など)

【成果】

・公民館、郡上市スポーツ推進委員、総合型地域スポーツクラブ(フラッグG,ブルーズ)と連携し、軽スポーツ大会、ウォーキング大会、スポーツ教室等の開催(延べ6,383人参加)し、ライフスタイルに合ったスポーツ活動の展開、スポーツに親しむ機会をつくることができ、参加者の増加にもつなげることができた。

▶カローリング、モルック、ヨガ、美的健康体操など、子供から大人まで楽しめる内容の教室を開催。参加者も増加している。

▶いつでも、どこでも、気軽に取り組めるチャレンジウォーク(※スマホを使って、歩いた総距離で賞品が当たる:136名参加)の実施、参加しやすい時間帯を選択できる健康体操教室の開催(84回813人参加※曜日、時間帯を大きく広げた開催)、郡上市スポーツ推進委員による健康増進に効果が高いノルディックウォーク教室の開催(9回289人参加)及び、清流長良川ウォーク&ノルディックウォークの開催(1回57人参加)。

▶ウォーキング、ノルディックウォーク、健康体操の開催にあたっては、取り組みやすい内容や開催日時等の工夫を行ったことで、参加者を増やすことができた。

・スキー場リフト券優待制度(延べ利用者7,948人)の実施や宇山芽紅トランポリン教室(176名)、郡上スポーツフェスタ(560名)、郡上スポーツフェスティバル(102名)の開催等を通して、多くの方がスポーツ活動に参加、親しむことができた。

・郡上スポーツフェスタでは、車いすバスケットボールの体験教室も開催した。

▶児童、生徒の保護者(30代~50代)も一緒に参加できるイベントを開催し、スポーツをするきっかけづくりとなった。

▶参加者に競技用車椅子の乗車や、車いすバスケットボールの試合を体験してもらい、障がい者スポーツの普及を図った。

【課題】

・生涯にわたり心身ともに健康な生活が送れるよう、誰もが気軽に取り組めるスポーツ機会の提供、ニーズやライフスタイルに合わせたスポーツ活動の展開が必要である。

・30代~50代のスポーツ実施率の低下要因を把握する必要がある。

II. 今後の方向性と具体的な展開

・市民一人ひとりが気軽にスポーツに親しみながら、健康な生活が送れるよう公民館等の関係機関と連携し、ライフステージに合ったスポーツ機会の提供、スポーツ活動の推進を引き続き行い、日常的にスポーツ(運動)に取り組む市民の増加につなげていく。

▶ウォーキング指導やノルディックウォーク講習の開催、アプリを活用した気軽な運動の実施

(歩数=ポイント制による賞品授与(県連携))。

▶公民館等、関係機関と協力し、健康体操や軽スポーツ大会など身近に参加できるスポーツ機会の提供。

▶健康体操教室等の内容をケーブルテレビでも放送し、移動が困難な方でも気軽に参加できる機会をつくる。

▶スキー場リフト券優待制度を活用したウィンタースポーツの普及促進を図るとともに、スポーツアドバイザー事業を活用したスキー教室やノルディックスキー教室の開催を実施していく。

▶スポーツを始めるきっかけとして、郡上スポーツフェスティバル等のイベント開催を通じて、スポーツの魅力に触れる機会を提供していく。また、健康課とも連携し、スポーツ(運動)の必要性について周知啓発を行っていく。

・30代~50代のスポーツ実施率の低下要因を追究し、スポーツに取り組むやすい環境の整備を進めていく。

評価 B 目指す姿に向けて概ね順調であるが、一部努力を要する。

<p>▶後期基本計画策定時の「現状と課題」</p> <p>スポーツ少年団やクラブ等の競技団体では、団員数の減少に伴う活動の縮小や休止、競技に精通した指導者の減少が顕在化しており、競技団体の活性化や指導者の発掘・確保・育成に向けた支援が必要です。</p>	<p>◎後期基本計画策定時の「目指す姿」</p> <p>競技種目や団体を選択できる環境と、充実した指導体制のもと、競技力が高く活発なスポーツ活動が展開されています。</p>
--	--

I. 施策の取組効果や達成状況に関する分析(関連する事務事業の成果や積み残されている課題など)

- 【成果】**
- ・スポーツ少年団等の活動の充実や指導者の育成、指導力向上を図るため、各種団体への支援並びに講習会の開催等を実施し、活発なスポーツ活動への促進を図った。また、関係団体(指導者、保護者、学校関係者等)に対して、郡上市のスポーツ活動の現状や今後の課題、それに伴う組織改革の必要性について説明を行い、地域クラブ移行に向けて一体となって検討を進めるため、郡上市地域クラブ活動拡大推進委員会の発足(令和5年度)につながった。
 - ▶郡上市少年スポーツ団体連絡協議会(構成103団体、1,641名)に対して、少年スポーツ活動支援事業交付金(基本単価5,500円/1人当たり)並びに補助金を交付。
 - ▶郡上市スポーツ少年団へ補助金を交付。
 - ▶地域クラブ活動移行に向けた説明会を学校関係者、保護者等へ12回、指導者へ6回実施。
 - ・スポーツ強化種目育成事業において、強化指定された相撲、剣道、スキーの活動支援をした結果、多くの全国大会出場選手を輩出できた。
 - ▶全国大会出場選手 相撲9名 スキー8名 剣道6名
- 【課題】**
- ・少子化に伴いクラブ員が減少することで、スポーツが出来ない、やりたい種目が選べない等の課題解決のため、地域クラブ活動移行に伴う「新たな仕組みづくり」が必要

II. 今後の方向性と具体的な展開

- ・学校運動部活動から地域クラブ活動への移行に向けた各種団体との研究、協議を実施する。
 - ▶各種目代表者(指導者)等による地域クラブ推進協議会の立ち上げ
- ・人数が少ないクラブ等は、地域を跨いだクラブの統合や、合同練習を行うことで、子供たちにスポーツが出来る(選択できる)環境を整える。
 - ▶平日は地元地域で、子供から大人で練習できる環境整備、休日は地域を跨いだ合同練習、合同試合を行うなど。
- ・地域クラブ活動における指導者、組織への支援強化
 - ▶岐阜県地域クラブ体制整備事業、中学校における部活動指導員配置促進事業の活用等

評価 B 目指す姿に向けて概ね順調であるが、一部努力を要する。

▶後期基本計画策定時の「現状と課題」	◎後期基本計画策定時の「目指す姿」
まちづくりアンケートによると、スポーツをすることや観ること、支えるといったスポーツ活動に参画する市民の割合が17.7%と低いと、スポーツの価値や魅力を感じることができる機会を提供し、スポーツへの関心を高める必要があります。	スポーツをすることや観る機会、スポーツ活動を支える環境が整い、スポーツ活動に参画する市民が増加しています。
施設の整備や、スポーツ合宿・大会等の誘致活動により、様々なスポーツや複合的な目的での利用が増加しているため、多様なニーズに対応できるよう受入態勢の強化が必要です。	多様なニーズに対応できる受入態勢が整い、多くのスポーツ合宿や大会が行われ、スポーツによる地域の活性化が図られています。

I. 施策の取組効果や達成状況に関する分析(関連する事務事業の成果や積み残されている課題など)

【成果】

- ・これまでのスポーツ合宿・大会等の誘致活動により、リピーターが定着したこと、また、利用者の利便性を追及すること(窓口の一元化)で、参加者数は18,465人(前年度12,339人)と大幅に増加し、多様なニーズに対応できる受入態勢が整いつつある。また、地元企業の参画など地域の活性化を推進することができた。
- ・スポーツは「する」という概念から、スポーツを「観る」、「支える」といった部分にもフォーカスしたイベントを開催し、子供から大人まで、幅広い世代の参加者が集まった。
 - ▶高鷲吼高原スポーツ広場の窓口の一元化(予約～宿泊、弁当手配等)により合宿・大会に13,924人、日本まん真ん中広場に4,085人、やまと総合センターに456人を誘致できた。※合宿に来る競技団体は、ラグビー、サッカー、アルティメット
 - ▶スポーツ大会誘致事業(郡上市ミナラグビー大会9/3～4、Good女子カップラグビー女子セブンズ大会10/29～30)
 - ▶スポーツ合宿支援補助金制度を活用し合宿誘致を図った(補助件数:23件、補助金合計:3,856,542円)。
 - ▶スポーツ魅力発信事業
 - ▶宇山芽紅トランポリン教室 8月:176名参加(オリンピックによる指導、演技披露)
 - ▶郡上元気スポーツフェスタ 10月:560名参加(3×3バスケット体験教室 車椅子バスケット体験教室等)
 - ▶郡上スポーツフェスティバル 11月:103名参加(スポーツクラブ【剣道、相撲、ライフル、テニス、陸上(かけっこ塾)】による体験教室の開催)
 - ▶上記イベントは、子供、保護者、ボランティアスタッフ(学校、クラブ等)が参加、地元企業(キッチンカーでの昼食提供)の協力で、スポーツに参画(する、観る、支える)するものとなった。

【課題】

- ・スポーツを参画するイベントの定着化を図る。
 - ▶スポーツの日:郡上スポーツフェスティバル 団員募集したいクラブを集めた郡上スポーツフェスティバルの開催
- ・合宿、大会における受付窓口の一本化を高鷲吼高原スポーツ広場以外でも行えるようにする。

II. 今後の方向性と具体的な展開

- ・合宿、大会における受付窓口の一本化
 - ▶呷高原スポーツ広場だけでなく、日本まん真ん中広場においても、美並地域振興課と連携し、施設の利用状況等を共有することで、受付窓口の一本化を図る。
- ・合宿地情報、観光情報、地域の魅力等を伝えるスポーツツーリズム版の郡上市紹介動画を作成し、合宿誘致に活用する。
- ・東京2020オリンピックを契機としたアーバンスポーツの普及・研究を行う。
 - ▶3×3プロバスケットボール(BEEFMAN)と連携協定を締結し、選手による直接の指導やイベントの参加、試合観戦等により、プロアスリートとの触れ合う機会をつくる。
- ・スポーツを通して、新しいカタチのスポーツコミュニティ【県内外との交流、地元企業との連携、プロアスリートとの触れ合い、ボランティア(応援サポーター)の発掘等】を創出する。
 - ▶郡上元気スポーツフェスタ、郡上スポーツフェスティバル、宇山芽紅トランポリン教室の開催
 - ▶地元企業との連携(物販やボランティアスタッフ派遣)、グルメブース(キッチンカー)の開設
 - ▶協賛いただける企業を増やす。(従来の協賛金を集めるものでなく、ボランティアスタッフ派遣、物販等と一緒に活動いただける企業を増やす。)
 - ▶上記イベント周知において、参加者だけでなく、イベントを一緒に盛り上げるボランティアスタッフ(応援サポーター)の募集も行う。

■後期基本計画策定後新たに生じた課題等

<ul style="list-style-type: none"> ・ ・
--

■関連する個別計画の有無

有	第2次郡上市教育大綱、郡上市教育振興基本計画(第3期)
---	-----------------------------